

C-55 女性服飾の嗜好色の地域差に関する研究(第1報)

サンリッチ研究所 吉川和志, 上戸女短大○青木迪佳

1. ^{目的} 若い女性の服飾の嗜好色の地域差を, 東京, 大阪, 高松, 福岡について考察した。
2. ^{方法} 調査対象は, 東京600人, 大阪300人, 高松150人, 福岡150人, 計1200人で, 年代は25才未満が88%であった。調査時期は1965年9月, 調査した服飾は, 65年に購入した夏物の無地のドレスであった。オストワルト色系に準拠した調査色票の構成色290色のうちから, 実際に購入した夏ドレスの色の近似色を求め, その色の記号を回答票に自記させた。
3. ^{結果} 嗜好色の地域差について, 次が認められた。

- (1) 答の色別出現度数の級別に該色数の分布を求めると, 4地区とも著しく左に偏ったL型の曲線を示し, 服飾の嗜好色は, 少数の色に著しく集中することが考察された。
- (2) 調査した色を8色群に分ち, 色群別の色嗜好の地域差を, 有意水準0.025で χ^2 自乗検定したところ, 次につき有意差が認められた。—東京は, 他の3地区に比し, 青緑の嗜好が多く, 東京に対し, 大阪は赤と青, 高松は紫と青, 福岡は黄, 橙, 緑が多かった。
- (3) 各色群内の色みの地域差は, 青の色群では, 東京は緑^{の青}み^{の青}, 高松と福岡は紫^{の青}み^{の青}が多く, 黄の色群では, 東京の緑^{の青}み^{の青}に対し, 高松では赤^{の青}み^{の青}が多いことに有意差が認められた。
- (4) トーン別の地域差は, 東京と大阪・高松間では, 浅い, 明るい, 灰みの各トーンが東京に多く, 深い, 冴えた, 濃いのは, 大阪と高松に多いことに有意差が認められた。東京と福岡とのトーン別分布には, 有意な地域差は認められなかった。
- (5) 無彩色と有彩色の比と無彩色内の明度分布とには, 有意な地域差は認められなかった。